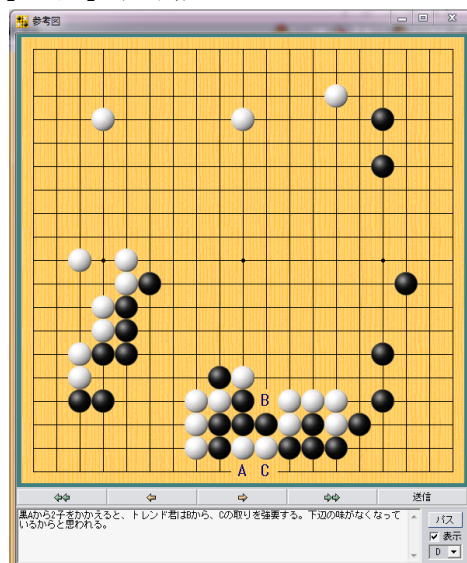


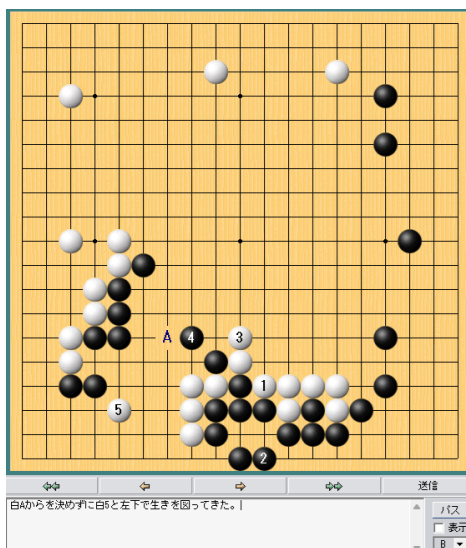
36. 下辺左側の白を生きさない対応（その後の検討—続編 2）

【15 図】（再掲）Trend136 君は 15 図まで、非常に高い確率（66%以上）で再現してくれるので、勝利しやすいのだが、この頃は、これ以降で手順をいろいろ変えてくるようになった。そのため、左下で白に生きられないための注意事項が増えてきた。前述（p.10）のように、下辺は黒 A で 2 子を制すること。その後、白 B を保留しておく場合があるので、うっかりしないこと。どこかでコウが生じたときのコウダテとなる。

【15 図】（再掲）

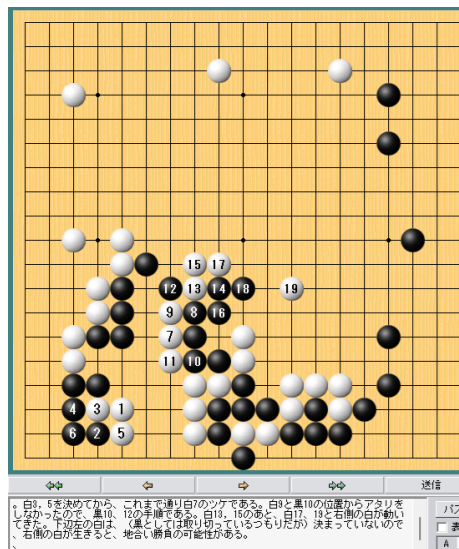


【78-1 図】



【78-1 図】白 A からを決めずに白 5 と左下で生きを回ってきた。

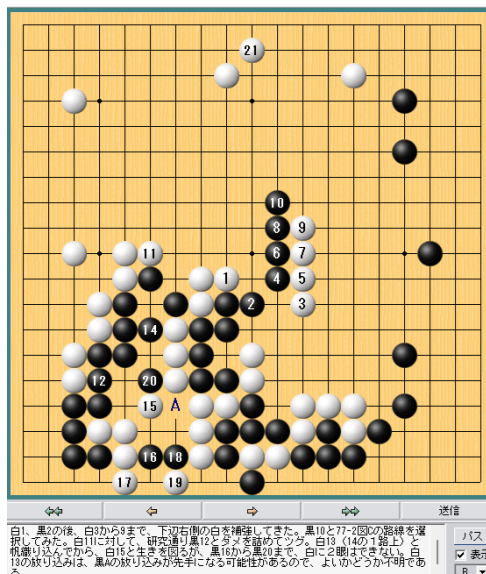
【78-2 図】



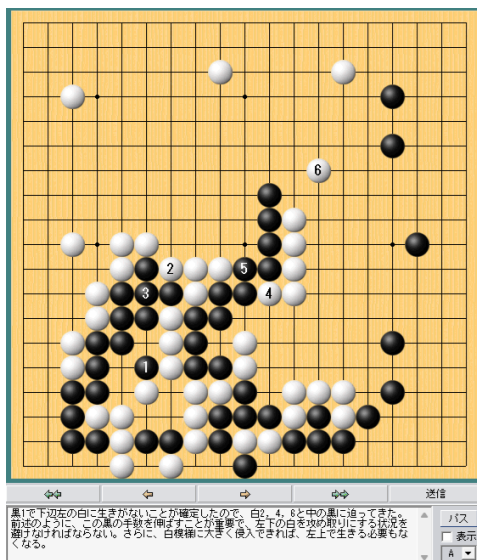
【78-2 図】黒 2 は上側が止まってはいないが、これまでの検討から、白 1 に対する受けの位置である。白 3, 5 を決めてから、これまで通り白 7 のツケである。白 9 と黒 10 の位置からアタリをしなかつたので、黒 10, 12 の手順である。白 13, 15 のあと、白 17, 19 と右側の白が動いてきた。下辺左の白は、(黒としては取り切っているつもりだが) 決まっていないので、右側の白が生けると、地合い勝負の可能性はある。

【78-3 図】白 1、黒 2 の後、白 3 から 9 まで、下辺右側の白を補強してきた。黒 10 と 77-2 図 C の路線を選択してみた。白 11 に対して、研究通り黒 12 とダメを詰めてツグ。白 13 (14 の 1 路上) と帆織り込んでから、白 15 と生きを図るが、黒 16 から黒 20 まで、白に 2 眼はできない。白 13 の放り込みは、黒 A の放り込みが先手になる可能性があるので、よいかどうか不明である。

【78-3 図】

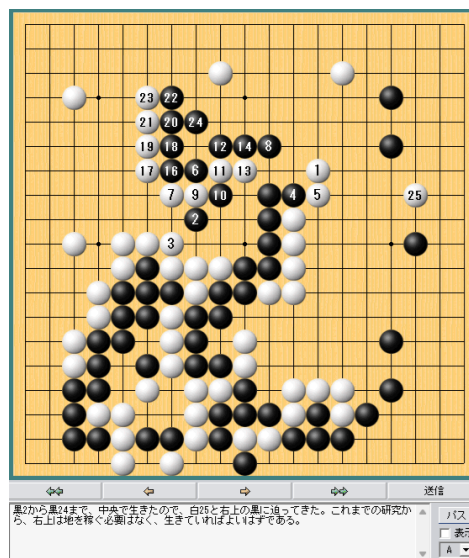


【78-4 図】



【78-4 図】黒 1 で下辺左の白に生きがないことが確定したので、白 2、4、6 と中の黒に迫ってきた。前述のように、この黒の手数を伸ばすことが重要で、左下の白を攻め取りにする状況を避けなければならない。さらに、白模様大きく侵入できれば、左上で生きる必要もなくなる。

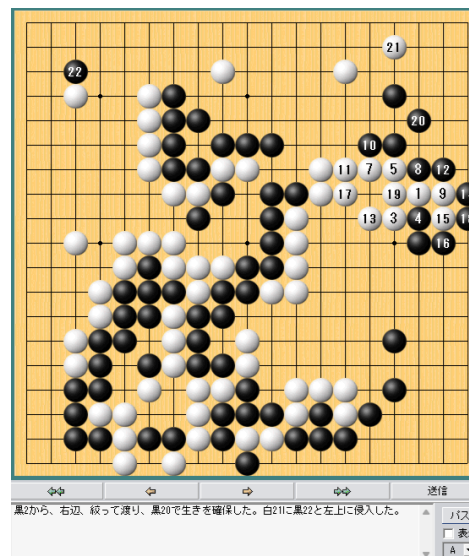
【78-5 図】



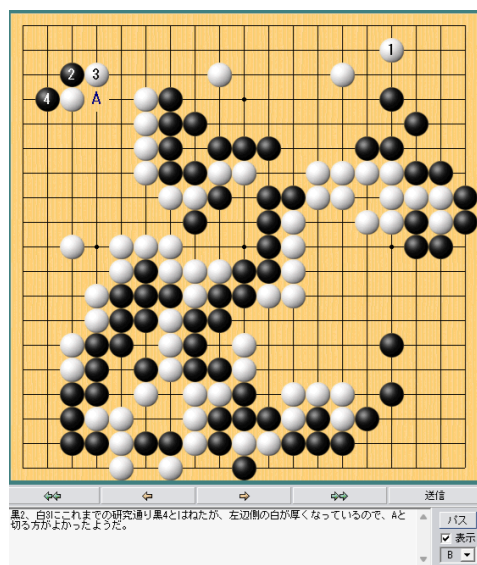
【78-5 図】黒 2 から黒 24 まで、中央の黒が生きたので、白 25 と右上の黒に迫ってきた。これまでの研究から、右上は地を稼ぐ必要はなく、生きていけばよいはずである。

【78-6 図】黒 2 から、右辺、絞って渡り、黒 20 で生きを確保した。白 21 の時、黒 22 と左上に侵入した。

【78-6 図】



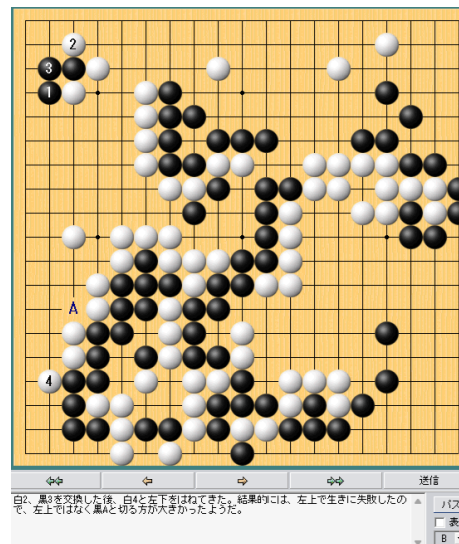
【78-7 図】



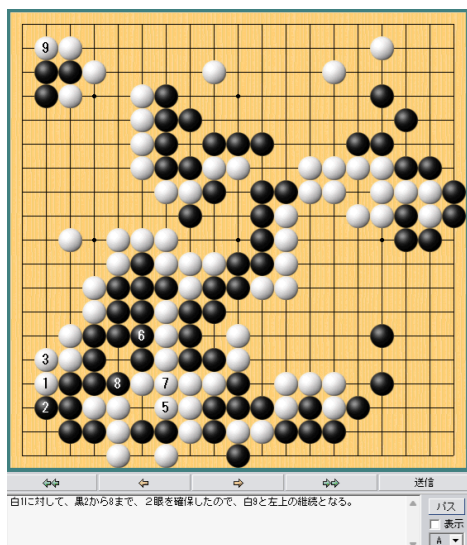
【78-7 図】黒 2、白 3 にこれまでの研究通り黒 4 とはねたが、左辺側の白が厚くなっているのに加え、黒も近くまで来ているので、A と切る方がよかったようだ。

【78-8 図】白 2、黒 3 を交換した後、白 4 と左下をはねてきた。結果的には、左上で生きに失敗したので、左上ではなく黒 A と切る方が大きかった。

【78-8 図】

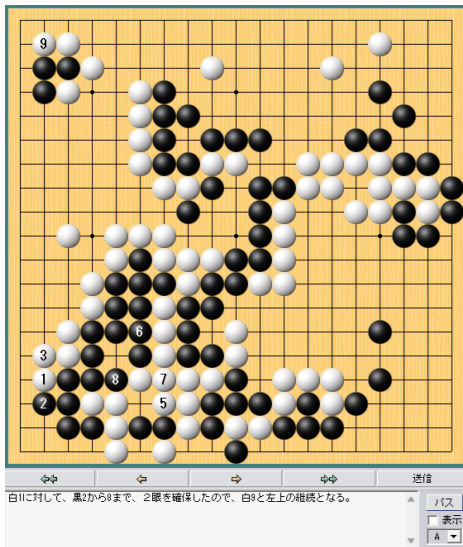


【78-9 図】



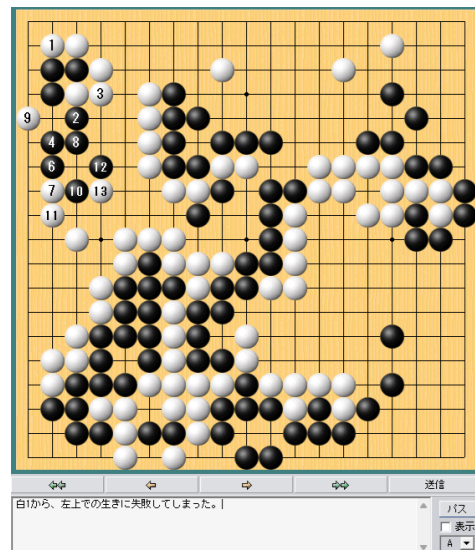
【78-9 図】白 1 に対して、黒 2 から 8 まで、2 眼を確保したので、白 9 と左上の継続となる。

【78-10 図】



【78-10 図】 白 1 に対して、黒 2 から 8 まで、黒は 2 眼を確保したので、白 9 と左上の継続となる。黒 8 のところに 1 眼確保できるので、78-4 図の黒 1 は重要である。

【78-11 図】



【78-11 図】 白 1 から 12 まで、左上での生気に失敗してしまった。78-7 図で黒 A とすれば、一部分は助けられそうである。通常は、ヨセ勝負で数目負けるパターンであるが、このあと、白が右下を荒らしたため、中央右の白が薄くなり、結果的に頓死することになり、白が投了した。
(以下略、208 手 黒中押勝ち)